

平成29年度決算審査の
自由討議からの意見・提言

福知山市議会
平成30年12月5日

福議発第1049号

平成30年12月5日

福知山市長 大橋 一夫 様

福知山市議会
議長 大谷洋介
決算審査委員会
委員長 桐村一彦

平成29年度決算審査の自由討議からの意見・提言について

決算審査委員会では、平成29年度決算審査に関連する市政の重要事項について、平成30年10月16日に自由討議を行った。

その際に各委員から出された意見等について、「平成29年度決算審査の自由討議からの意見・提言」として取りまとめた。

この意見・提言について、今後の行政運営や翌年度予算編成の参考とされたい。

平成29年度決算審査の自由討議からの意見・提言

1 平成29年度決算と本市独自事業の取り組みについて

- ①福知山市の経常収支比率は、平成29年度決算において97.7%に達した。これは、一般財源による市独自の事業執行に一定の制限が懸念される状況である。本市としては、地方自治の原点に立ち返り、限られた財源を、住民主体の事業に振り向けた執行に努められたい。
- ②本市独自の歳入財源の確保には、地域活性化による市税と税外収入の増収が必要である。今後は、これら歳入の増収確保に向け、具体的な政策を立案し、さらなる地域の活性化に取り組まれたい。
- ③本市の決算状況について「経常収支比率」が大きく取り上げられているが、その他の財政指標についても更に分析を進めるとともに、新たに導入された新地方公会計制度も含めた総合的な財政分析を行い、行政改革に努められたい。
- ④ 今後、投資的事業の執行においては、十分に事業内容を検討し、本市の財政的負担を常に視野におき、計画的な事業執行にあたられたい。
- ⑤指定管理者制度のあり方の見直しや公共施設マネジメントの実施計画の進捗については、今後も重要事項として継続して注視していく必要がある。適切な時期に市議会に進捗状況の報告をされたい。